



皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、前理事長の後を受け、理事長に就任いたしました石橋 英樹でございます。

当金庫は、大正13年の創業以来、普遍の理念である「地域とともに歩む」を基軸とし、地域の皆様の金融の受け皿として、地域社会の発展やお客様が豊かな生活を築くための活動に全力で取り組んでまいりました。

令和6年6月には、創立100周年を迎え、綿々と紡がれた歴史の流れを目の当たりにし、諸先輩方が地域のために貢献された偉大な足跡に触れ、身が引き締まる思いがしました。

この偉功を後世に伝え、次の100年への礎を築き、進化を図ることが私の使命であるとともに、平成30年に掲げた、将来への羅針盤ともいべき「千葉信用金庫ビジョン」を令和10年での到達へ導くことが、至上命題であると考えています。

本年も千葉信用金庫の考え方や経営方針ならびに業績などを皆様にご理解いただくため、第103期ディスクロージャー誌を作成いたしました。

本誌を通じて千葉信用金庫に対する一層のご信頼を賜ることができましたら幸いに存じます。

令和7年度の日本経済は、緩やかな回復基調を維持し、積極財政への期待感やAIの急速な進化等により日経平均株価は最高値を更新するなど前向きな動きが見られました。一方で、中東情勢の影響や原材料価格の高騰、人手不足などの影響で地域経済にとって厳しい状況も見られました。

このような状況下、当金庫は「千葉信用金庫ビジョン」達成までの最終計画とした第8次中期経営計画「未来は今、この瞬間から」の2年目として、「顧客基盤の拡充」「人財力の強化」「リスク管理態勢の強化」の3つの柱を掲げ、地域社会やお客様の「ベストパートナー金融機関」となるべく、役職員一丸となって積極的に取り組みました。

令和8年度は、第8次中期経営計画の3年目にあたりますが、絶えず変化する社会、経済環境の中、生成AIやDXを積極的に取り入れることにより、変えるべきところは変え、「Face to Face」という基本姿勢は変えることなく、お客様の立場を深く理解した課題解決活動に邁進する所存です。

末筆ではございますが、皆さまの一層のご発展を心より御祈念申し上げますとともに、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和8年7月

理事長

石橋 英樹